

倉庫の中身って？

皆さん、町中で道の脇に設置されている倉庫に気がつかったことありませんか？ 倉庫には〇〇自治会防災倉庫って書かれてあると思います。例えば、当菱沼小和田自治会の#3倉庫は下の写真のようになっています。



防災倉庫？ 何が入ってるの、それが防災にどう役立つの？ ですよ。

そこで、当自治会防犯防災部主催の元、今回は防災倉庫の中に入っている防災備品類の展示会を、下記の要領で開催しました。



上のポスター下部の※展示例に記載されているような物品が保管されているみたいですね。本書は、展示会でやっと目の目を見た備品類の紹介と少しの解説としてまとめました。

本展示会に先立つ 2023(R05)年 10 月 22 日(日)には、小和田地区自治会連合の本格的で実践的な#22 防災訓練も行われました。当自治会からも 10 名以上が参加しています。

茅ヶ崎市の防災対策課及びまちぢから協議会連合会のパンフレット(2023.07)にも記載されたように、水・食料は個人備蓄が基本と言う方針に従い、自治会としても今後はこれらの備蓄は行いません。これを受けて、今回の展示会では、今まで保管していた備蓄品類の(大)放出も行ないました(下の右側の写真参照)。



防災備品はスマイルパークに設営予定の自治会災害本部*で使用するようになります。今回は実践も兼ねて上右の写真のように、リヤカーと車椅子を使って展示会場までの備品類運搬をもやってみました(備品倉庫から、展示会場複合設備まで約 310 m、スマイルパークまで約 315 m です)。

*災害時の避難所、広域避難所の区分など、防災に関しては茅ヶ崎市の HP を参照して下さい。今や防災にはミサイル飛来時の対応までが含まれる時代となっております。

本展示会に参加された方々に感謝するとともに、本書が災害時の自治会保有の備品類の有効性や種類などの理解に繋がれば幸いです。

1. 倉庫前での準備(防災備品の選別、取り出し)

倉庫内は棚も有って物品が整理整頓されています。



ただ、倉庫内物品全てが防災用備品ではないので、今回の展示会に持って行く物品を選択、取り出しが必要になります。年に一度、自治会の各部で棚卸をしており、棚卸データは備品の保管場所や数量確認に役立ちます。

下の写真は折り畳み式リヤカーを組み立てているところ。



一般的な備品、例えば、テント、椅子、机などはイベントが有るたびに外に出して使いますが、防災用備品は、スワップの時まで使われることもなく、倉庫内で保管されているだけです。今回の展示会で皆さんのお眼に止まる(止まらせる)ために外に出すことも、展示会の趣旨の一つでした。

2. 簡易トイレ類組み立てと設置(室外)



簡易トイレ用テントの組み立てで鳩首会議。こんな作業もやってみないとすぐには出来ず、交換したほうが良いと思われる物品の確認のためにも重要です。

3. 備品類の展示(室内)

注意：複数個あっても全てを展示している訳ではありません。

3.1 折り畳み式リヤカー及び車椅子



備品の運搬に活躍したリヤカーと車椅子です。リヤカーは時々使いますが車椅子の使用機会は？ 今回の運搬作業で車椅子は使えること分かりました。

ただ、展示のため室内にリヤカーを入れようとした時、幅が大きくて入らなかったのは秘密です(リヤカーが折りたためるものだったので上の写真のように鎮座しておられますが)。

3.2 (防寒)毛布類



寒い時には、取り敢えずあれば非常に有りがたいものでしょう。

3.3 投光器、ラジオ、及びトランシーバー



手回しラジオは個人でお持ちの方もいるでしょうけど、投光器は、個人持ちは少ないですよ(それも光量の多いハロゲンランプ)。ほんとに点灯するの?と思われる方は p.9 をご参照ください。

3.4 ソーラーパネルと蓄電池



ソーラーパネルの写真下にある青色の箱は USB 端子で(電圧が合えば)直接繋げることができます。ポータブル蓄電池はソーラーパネルでできた電気を蓄えるための専用の蓄電池です。室内(複合施設会議室)だったので、残念ながら発電効率や蓄電能力のチェックはできませんでした。これらのセットも今後虫干しの機会を与えないといけないかもしれません。

3.5 緊急呼子笛と飲料水用備品



写真上の呼子笛は災害時に自己存在のアピール用(映画 タイタニックのヒロイン、これで助かった)。
写真下左は折り畳み 10L タンク。小さく畳んで 10 L 分を確保できるので家庭でも重宝するかもしれません。給水車が来ても容器が無いと困るでしょう？ 皆さんどうしてます？
写真右の浄水器のテストは行えませんでした。

3.6 防災セットと救急箱



上の赤いバッグに下の備品類が入っています。スリッパはガラス破片などを踏んでも怪我をしないように。なお、バッグには肩掛けもあり、更に移動用車輪が付いています。

3.7 災害救助用工具??



中身は下の写真のような物が入っていました。



これを組み立てるとこのようになります。



こんな工具類が必要になるような大事にならないことを祈ります。ただ、初動対応は可能かもしれません。

3.8 発電機



家庭用コンロのガスボンベ2本をセットして使います(10℃以上で使用のこと)。

起動は、まず本体下側のスターター(白の楕円で囲った部分)を引き出して行います。これにはコードが付いていて、それを勢いよく引っばって(内部のピストンにガスを吸気)起動します。セルが付いていない小型オートバイのエンジンをキックして起動するのと同じです。

下は備品のハロゲン投光器をつないで無事点灯して喜ぶ防犯防災部長。ハロゲン球無事でした。



ただし、室内での運転は、排気ガスが出るので止めましょう(結構うるさい)。

3.9 折り畳み式担架(キャリアフ)



これは見れば何となく使い方が分かります。最大 100 kg との記載です。

(か弱い)女性 6 名でも大人の男一人を持ち上げられました(本来なら、このままの恰好で運ぶわけですが)。

災害時、避難所や避難場所が用意されるまで、自治会の災害本部が活動を行うことになります。その時に、自治会で、どれだけのことができるかは不明ですが、どんな備品があって、その状態やどのように使えるかなどを知っておくことは大事です。

自治会評議員の任期は 2 年と限定的ですが、このような展示会を定期的に行っていれば、自治会員の方が備品を知る機会になるでしょうし、備品の健全性チェックも兼ねることができます。この備品は不要だ、これはもっとあった方が良い、と意見を頂けるかもしれません。

少なくとも防災倉庫を開けたときに、なんじゃこれはと絶望することはなくなるでしょう。